

要旨

現在ロシアのウクライナ侵攻や新型コロナウイルスと世界的な歴史的事象が頻発している。このような状況は第2次世界大戦前と似ている部分がある。そのためメディア・情報という観点から考えるとSNSが発展している現代でもプロパガンダが蔓延しているのではないかと考えた。そこで本研究では第2次世界大戦下の主流メディアであるポスターと現代の主流メディアであるインターネットの中から政府広報オンラインの新型コロナウイルスの伝え方を比較しプロパガンダが現存しているかを検証している。結論として2者は共通項が多く蔓延していると考えられた。よって情報が氾濫している現代では受動的に情報を取らず能動的に真偽を各個人で探る必要があるだろう。